

安全データシート

初回作成日：2016.05.30

改定日：2018.04.16

1. 化学物質等及び会社情報

製品名 : ストーンブロック
製品の用法記載 : 牛用混合飼料
会社名 : 共立製薬株式会社
電話番号 : 03-3264-7559

2. 危険有害性の要約

GHS分類

急性毒性（経口） : 区分5
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2B
特定標的臓器毒性（単回暴露） : 区分2
特定標的臓器毒性（反復暴露） : 区分1
水性毒性（急性） : 区分外
水性毒性（慢性） : 区分外

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 : 飲み込むと有害のおそれ

眼への刺激

臓器の障害のおそれ（神経系）

長期又は反復暴露による全身毒性の障害

注意書き : 安全対策 :

取扱い後は手をよく洗うこと。

保護手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置 :

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用
していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けるこ
と。

眼の刺激が続く場合 : 医師の診断/手当てを受けること。

保管 : 直射日光、高温及び多湿を避けて保管すること。

廃棄 : 廃棄する場合には、都道府県又は市町村条例等に従い処分すること。

3. 組成及び成分情報

化学名	CAS 番号	濃度	化審法／安衛法
・塩化ナトリウム	7647-14-5	89.0%(Min)	1-236
・塩化アンモニウム	12125-02-09	10.0%(Max)	1-218
・硫酸マンガン	15244-36-7		1-477
・炭酸亜鉛	12122-17-7		1-611
・酸化マグネシウム	1309-48-4		1-465
・硫酸銅	7758-98-7		1-300
・フマル酸第一鉄	141-01-5		2-1094
・ヨウ素酸カルシウム	7789-80-2		1-185
・炭酸コバルト	513-79-1		1-126
・着香料			

4. 応急措置

- 一般的アドバイス : 特別な応急措置が必要になる危害要因はない。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染した衣服および靴を脱ぐ。
直ちに付着部を大量の水で洗い流す。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
眼刺激が治まらない場合は、専門医に相談する。
- 飲み込んだ場合 : 口を水で洗浄し、その後多量の水を飲む。
意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。
症状が持続する場合は、医師に連絡する。
- 医師に対する特別な注意事項
- 症状 : 情報なし。
- 取り扱い : 症状に応じた治療を行う。
-

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 製品自体は燃焼しない。
現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。
- 使ってはならない消火剤 : 特になし。
- 特有の危険有害性
- 燃焼生成物 : 火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
- 消火を行う者の保護 : 火災時には、自給式呼吸器を着用する。
-

6. 漏出時の措置

- 人体に対する予防措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものの皮膚に付着したり、粉じんを吸入しないようにする。
- 環境に対する注意事項 : 環境に対する特別処置は必要ではない。
- 除去方法／封じ込め的手段 : 飛散したものは掃き集めて、適切な容器に回収する。飛散した場所は、水で十分に洗い流す。
- 追加アドバイス : 個人保護については項目 8 を参照する。
-

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 安全取扱注意事項 : 取扱い後は手をよく洗うこと。
保護手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。

保管

- 保管場所および容器の必要条件 : 直射日光、高温及び多湿を避けて保管すること。
- 一般的な保管について : 他の製品との混蔵には、特別の制限はなし。
- 特定の利用法 : 動物用飼料
-

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度（塩化アンモニウムとして）

- 日本産衛学会 : 未設定(2009年版)
- ACGIH : TWA 10mg/m³ STEL、20mg/m³(2009年版)
- 眼／顔面の保護 : 安全眼鏡、保護面
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護手袋、保護衣
- 衛生対策 : 作業上の一般的な注意事項を守る。
- 環境における露出管理
- 一般的アドバイス : 環境に対する特別処置は必要ではない。
-

9. 物理的及び化学的性質

外観

- 形状 : 固体の圧縮
- 色 : 白色
- 臭い : 特異な臭い
- 臭いのしきい(閾)値 : 非該当

安全性データ

- pH : 非該当
- 融点 : 801 °C
- 沸点 : 1,465 °C
- 引火点 : 非該当

蒸発速度	: 非該当
燃焼性（固体、気体）	: この製品はGHS分類の可燃性ではない。
可燃性（液体）	: 非該当
爆発範囲の下限	: 非該当
爆発範囲の上限	: 非該当
蒸気圧	: 非該当
蒸気密度	: 非該当
密度	: 約1,900 kg/m ³ で20 °C
比重（密度）	: 約1.9 で20 °C
水溶性	: 310 g/l で18 °C
	可溶性
溶媒に対する溶解性	: データなし
n-オクタノール／水分配係数:	該当せず
自然発火温度	: 非該当
分解温度	: 非該当
粘度	: 非該当
動粘度	: 非該当
爆発特性	: 非爆発性
酸化特性	: 非該当

この安全データシートには、安全性に関する情報のみが掲載されているので、商品情報や商品仕様
に代わるものではない。

10. 安定性及び反応性

避けるべき条件	: 日光、熱
混触禁止物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 窒素酸化物、塩素、塩化水素
反応性	: 通常の状態では安定。
化学的安定性	: 推奨保管条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件において既知の危険な反応はない。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: 塩化アンモニウムについては、ラットのLD50 = 1650 mg/kg (ACGIH (2001))、1410 mg/kg bw (SIDS (2009))、1658 mg/kg bw (IUCLID (2000)) の報告がある。区分4であるが、配合量から算出し、区分5とした。
眼に対する重篤な 損傷性／眼刺激性	: 塩化アンモニウムについては、ウサギを用いた試験で軽度 (mild) の刺激性との記述 (ACGIH (7th, 2001))、また、点眼後10分、1時間、24時間に中等度 (moderate) の刺激性が認められ、発赤、浮腫ないし

	角膜混濁などの変化は8日以内に跡形も無く回復したとの報告 (SIDS (2009)) がある。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 塩化アンモニウムについては、経口投与により、ラットでは1000 mg/kg bw以上で呼吸困難、無関心、姿勢異常、よろめきの症状、マウスでは1200 mg/kg bwで下痢、チアノーゼ、失調性歩行が観察された (SIDS (2009))。これらの症状と剖検での脳出血の所見 (SIDS (2009))、さらに塩化アンモニウムの摂取後に中枢神経障害の発現が報告されている (EHC 54 (1986))。以上の記述に基づき、1000~1200 mg/kg bwはガイダンス値区分2に該当することから区分2 (神経系) とした。なお、ヒトで大量摂取の場合、嘔気、嘔吐、頭痛などの症状とともに進行性の嗜眠状態を生じ、アシドーシスと低カリウム血症を起こす可能性がある と記述されている (SIDS (2009))。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 塩化アンモニウムの長期間 (6ヵ月) 摂取により疲弊と空気飢餓感のため、あるいは呼吸亢進と錯乱のため入院に至った (代謝性) アシドーシスの症例、および短期間摂取後軽度の (代謝性) アシドーシスを発症した症例など、アシドーシスに関して複数の報告 (SIDS (2009)、ACGIH (2001)) があることから区分1 (全身毒性) とした。なお、ウサギに高用量を経口反復ばく露によりアシドーシスが観察されているが、ラットに経口による反復ばく露試験では重大な毒性影響は認められず、NOAELに関しては70日混餌投与試験で684 mg/kg bw/day (90日補正: 532 mg/kg bw/day) (SIDS (2009))、56日混餌投与試験で493 mg/kg bw/day (90日補正: 307 mg/kg bw/day) (SIDS (2009)) であった。また、ウシに112日間混餌投与ではNOAELが206 mg/kg bw/day (SIDS (2009)) であり、経口ばく露の場合いずれもガイダンス値範囲の上限を超えている。

12. 環境影響情報

水性毒性 (急性)	: 塩化アンモニウム 魚類 (ブルーギル) LC50=74.2mg/L/96 hrs (ECETOC TR91, 2003) 塩化ナトリウム 魚類 (ブルーギル) LC50=9675mg/L/96 hrs 以上より、配合量から算出し、区分外とした。
残留性、分解性	
生体蓄積性	: データなし
移動性	: データなし
生分解性	: データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄する場合には、都道府県又は市町村条例等に従い処分すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

ADR

危険物として規制されていない

UNRTDG

危険物として規制されていない

IATA-DGR :

危険物として規制されていない

IMDG-Code :

危険物として規制されていない

MARPOL 73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）：
供給された状態の製品には不適用。

輸送に関する追加情報：

国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。

15. 適用法令

消防法 : 危険物、指定可燃物に該当しない

労働安全衛生法 : 塩化アンモニウム（別表第9の96）
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条、施行令第18条別表第9）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2
別表第9）

毒物及び劇物取締法 : 非該当

高圧ガス保安法 : 非該当

船舶安全法 : 危険物として規制されていない

航空法 : 危険物として規制されていない

廃棄物の処理及び清掃に関する法律
: 産業廃棄物

飼料安全法 : その他の混合飼料に該当（飼料添加物に指定された化学物質を含む）

16. その他の情報

引用文献

- ・（独）製品評価技術基盤機構 GHS分類結果
 - ・安全衛生情報、GHSモデルMSDS情報
 - ・NITE 化学物質総合情報提供システム
-

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等のために作成されたものですが、記載されている情報はいかなる保証をするものではなく、品質を特定するものでもありません。また、このSDSのデータはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料と組み合わせた使用に関しては有効ではありません。